

予算特別委員会(平成 30 年 3 月 12 日～3 月 26 日)

浜崎達也議員の質疑



福岡県水道ビジョン策定について

新年度に策定予定の「水道ビジョン」とは、どんなものですか。

春日那珂川水道企業団の「盗水問題」の解決まで、残すところあと2年だという記事がありました。この件についての県の姿勢を伺います。

多くの水道事業体（市町村水道、水道企業団）では、老朽管更新などで事業費がかさみ、特に小規模事業体は、単独での存続が難しくなるのではないかと危惧しています。水道事業の広域化について知事に伺います。また、県内の災害対策のために、災害時の水の融通ができるハード、ソフト面の連携強化について、水道ビジョンで明示するのか、お尋ねします。



【執行部の答弁】

水道ビジョンでは、本県水道の現状と課題を明らかにし、水道の将来の理想像を明示するとともに、取り組みの目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担を提示することとしている。また、県内水道事業者をはじめとする水道関係者が一丸となって、広域的に連携しつつ、様々な取り組みに挑戦できる体制を整備し、将来にわたって持続可能な水道の供給基盤を確立することを目的としている。

春日那珂川水道企業団に対しては、恒久的な水源確保策の進捗状況を随時確認し、期間内に確保できるよう適切な助言・指導に努めていく。

【知事の答弁】

田川地域において、田川地区水道企業団とその構成団体である田川市、川崎町、糸田町及び福智町が平成31年度の統合を目指して手続きを進めている。

この統合が、モデルケースとして広域化に向けた動きとして、他の地域にも広がっていくよう積極的に助言や支援を行っていく。

新年度に予定している水道ビジョン策定に当たっては、各水道事業者の実情や費用対効果を踏まえ、より実効性のある災害時の支援方策についても、検討を進めてまいる。